

憲法九条を守るわかやま県民の会」ニュース

NO.89 08.12.8 発行「憲法九条を守るわかやま県民の会」事務局

県地評 Tel 073-436-3520 Fax 073-436-3554 E-mail w chihyo@naxnet.or.jp

後藤正人氏が講演 08年度憲法会議総会開かれる

11月20日(木)午後6時から高校会館4階ホールで2008年度憲法会議総会が開催され30人が参加しました。総会の運動方針では、この1年間の県下の憲法運動をふりかえり、県下の9条の会が約90になり、9条を守る県民過半数署名が約8万筆に達するなど引き続き運動が前進していることに確信を持つとともに、憲法会議として憲法改悪反対の取り組みをすすめるとともに、日本国憲法の平和的、民主的原則の精神を広く国民の中に普及することを通して、憲法を平和とくらしの中に生かす推進役を果たすことの大切さが強調されました。

後半の記念講演では和歌山大学の後藤正人教授が「植木枝盛の憲法・平和思想と日本国憲法」と題して約1時間講演しました。講演の中で明治期の植木枝盛氏が提起した「非戦・軍備全廃」の思想が戦後、鈴木安蔵などの憲法研究会の「憲法改正要綱」を通じて日本国憲法に結実したことが明らかにされました。「憲法改正要綱」がGHQのマッカーサー草案に影響を与えたことは憲法調査会報告書(1964年)の付属文書に明記されているとの説明もされました。

石川康宏氏を迎え憲法学習会 新宮市で100名が参加

憲法を守る県民大署名紀南推進共同センター、くまの平和ネットワーク共同で、11月26日(水)、午後6時30分より、新宮市職業訓練センター大ホールにおいて、憲法学習会を開催し、講師に石川康宏氏(神戸女学院大学教授)を招き、「いまこそ憲法どおりの日本をつくろう！」の演題で記念講演を行いました。学習会は、100名を超える参加者で熱気の中、学び合いました。

学習会に先立って、共同センターの増田事務局長が、「改憲策動が顕著になった昨年以降、憲法9条を守らなければという危機意識をもった人々によって、憲法9条を守る運動が急速に広がってきています。全国で七千を超える「九条の会」が結成されています。この紀南においても十の「九条の会」が結成され、同時に、これら九条の会が連絡を取り合って「くまの平和ネットワーク」が誕生しました。和歌山県では、憲法9条を守る県民過半数をめざす取り組みが行われています。紀南でも、本日の学習会を契機に、住民過半数をめざす署名運動がスタートします。来年の1月18日(日)には、すべての組合員・構成員が地域に署名用紙を持って、紀南に9条を守る大きな風を起こそうではありませんか。」と訴えました。

講演会では、神戸女学院大学教授の石川康宏氏が、「憲法どおりの日本をつくろう！」をテーマに、約120分の記念講演を行いました。世界的な大きな視野でいまの情勢を鋭く分析し、参加者に憲法を守る運動の確信と展望を与えてくれました。当日は、石川康宏氏の著書を購入する参加者も多く、数十冊が売れていました。

新宮・東牟婁地域では、いままで「9条を守る署名」運動は、温存(?)していましたが、いよいよ本格的に始動しました。1月18日には、すべての構成員が2枚の署名を地域に打って出る方針を確認しています。

きのくに9条の会が第4回総会 バザー、講演、青年の発言、紙芝居、ストレッチ体操など多彩に

2008年11月29日(土)午後、和歌山県民文化会館で「きのくに9条市民の会」の第4回総会が開かれ、40名が参加しました。



バザーのあと開会。記念講演で和歌山憲法会議事務局長の坂本文博氏が「守り、活かそう憲法九条」と題して、海外派兵恒久法の危険性、世論と運動の前進(読売調査、名古屋高裁判決)、東南アジア友好協力条約などの平和の共同体の前進を例に、今や9条が世界で注目されていることに言及、「9条を守る安定した多数派の形成を！」と訴えました。

次に、原水禁世界大会に参加した4名の青年が「青年と平和について」と題して、青年らしい感覚で平和運動の大切さと課題などを話しました。

紙芝居「おかあさんのうた」は海南市空襲で養母に抱かれて一人だけ助かった実話で、参加者の涙を誘いました。ストレッチ体操で体をほぐして休憩に入った後、総会では活動報告・会計報告を承認、世話人を選出して終了しました。

「もし憲法が変えられたら生活はどうなる」雑賀9条の会第4回総会で由良登信弁護士が講演



12月6日(土)午後、和歌山市の雑賀9条の会は第4回総会を西浜自治会館で開催し、会場いっぱいの36人が参加しました。総会を記念して由良登信弁護士が講演。改憲をめぐる最近の状況に触れた後、もし憲法が変えられたら私たちの生活はどうなるかについて言及。言論の自由など国民の諸権利が奪われるだけでなく、軍事費が際限なく増え、社会保障や暮らしの予算が削られ、私たちの生活が破壊される危険性があることが強調されました。

みんなで歌を歌ったあと、総会行事に入り、500人の参加で成功した「雑賀9条まつり」や賛同者が974人までになったことなど取り組みの前進と今後の方針を確認しあいました。

